

昭和27年に本校の生徒が寄進した 薬師寺東塔「縁の瓦」2枚が、六十年余りの時を経て里帰りしました。

9月27日に仲介してくださった公益社団法人信濃教育会様から上野校長に里帰りした瓦が渡されました。瓦には学校名が刻まれています。



薬師寺東塔 「縁の瓦」



薬師寺東塔「縁の瓦」

昭和二十五年十二月、奈良県国宝保存連盟会長、奈良県議会議長、民生部長、教育長連名による「国宝保存学徒募金」の依頼が信濃教育会にありました。信濃教育会は、県内小・中・高等学校長、「国宝保存学徒募金幹旋の件」の文書を発信し、仲介の労をとりました。各校では自主的募金活動が行われ、集められた募金は直接奈良県国宝保存連盟に届けられました。この全国から寄せられた浄財と国庫補助金により、法隆寺、薬師寺、唐招提寺を含む十五古社寺の保存修復が行われました。

時は流れ、薬師寺では平成二十一年より、百十年ぶりに国宝三重塔（東塔）の解体修復が行われました。この解体修復に伴って県内小・中高等学校の校名が裏面に刻まれた三百六十枚の屋根瓦（縁の瓦）が発見されました。その瓦の中で、東塔の屋根瓦として再使用されない瓦の里帰りを願い、平成二十六年の第四回総会において「薬師寺東塔の瓦に関する決議（案）」が決議され、取り組んでまいりました。

そして、奈良県教育委員会、薬師寺など関係機関のご協力により里帰りが実現し、不再使用瓦百二十六枚の「薬師寺東塔「縁の瓦」里帰り式」を平成二十九年七月十一日に開催しました。

令和二年、薬師寺の解体修復の最終段階となりましたが、再使用するために残された瓦のうち、屋根の反りに合わず再使用されなくなった瓦が五十七枚あるという連絡を薬師寺よりいただきました。そこで、その五十七枚の瓦が改めて各学校に里帰りすることとなりました。児童生徒の皆さんには、各校の歴史を伝えるものとして、また東塔の屋根にのついていたという実感、先輩の思いなど、今のつながりを感じてもらえれば幸いです。

令和二年九月

公益社団法人 信濃教育会
会長 武田 育夫